

障がい者の舞台芸術表現・鑑賞に関する実態調査 劇場・文化施設アンケート 集計・分析メモ（詳細版）

調査対象 国立・公立文化施設ならびに民間文化施設 2,385 施設
 公立文化施設協会加盟：1,288 施設 公立文化施設協会非加盟：1,097 施設
 調査期間 平成 28 年 9 月 20 日（火）～9 月 30 日（金）
 調査手法 送付した調査票に手書きし返送
 有効回答 665 件（国立文化施設 6 施設、公立文化施設 625 施設、民間文化施設 34 施設）
 回収率 27.8%
 分析者 株式会社リアライズ バリアフリーイベントディレクター 南部充央

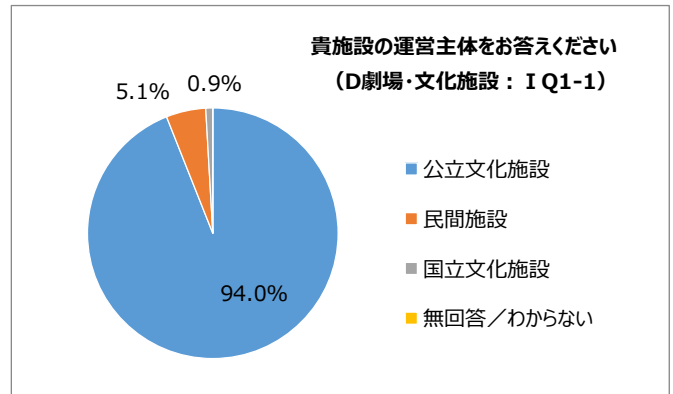
I 基本情報

I Q1. 運営について

I Q1-1. 貴施設の運営主体をお答えください。

	件	%
公立文化施設	625	94.0%
民間施設	34	5.1%
国立文化施設	6	0.9%
無回答／わからない	0	0%

（有効回答数：665）

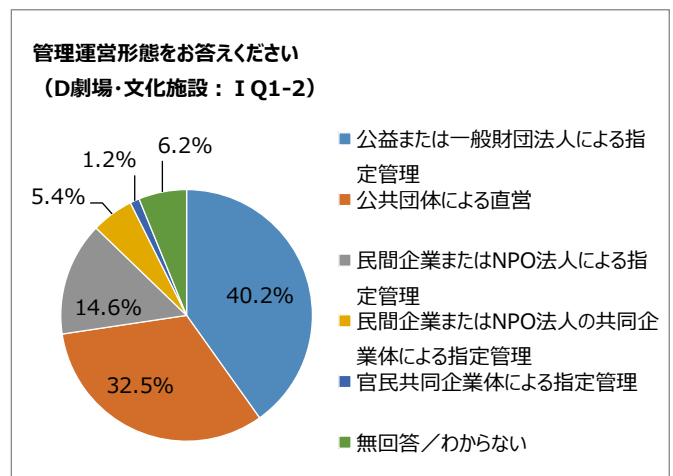


I Q1-1で「（2）公立文化施設」と回答された方

I Q1-2. 管理運営形態をお答えください。

	件	%
公益または一般財団法人による指定管理	267	40.2%
公共団体による直営	216	32.5%
民間企業または NPO 法人による指定管理	97	14.6%
民間企業または NPO 法人の共同企業体による指定管理	36	5.4%
官民共同企業体による指定管理	8	1.2%
無回答／わからない	41	6.2%

（有効回答数：665）

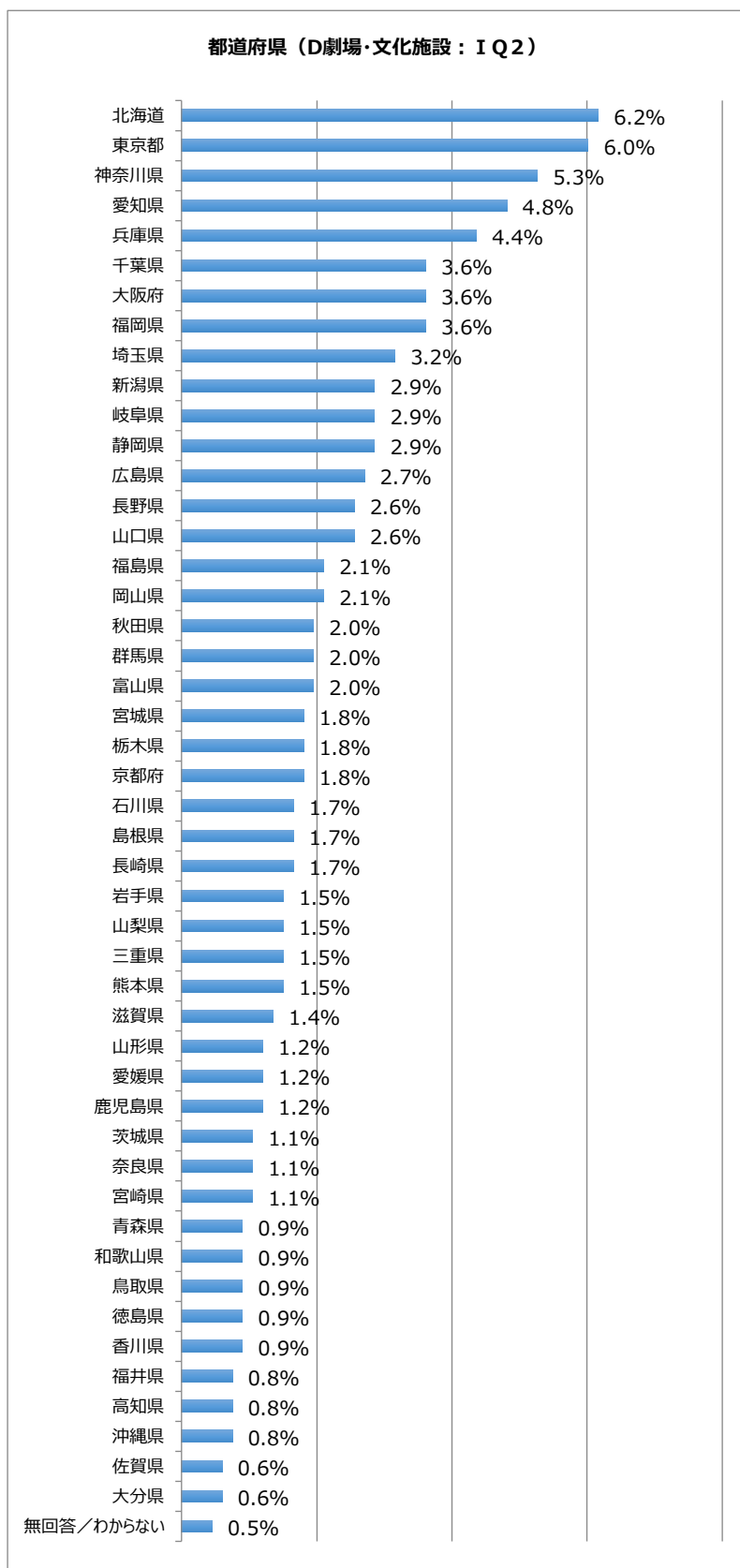


アンケートに回答した 94.0%（625 件）は公立文化施設であった。公立文化施設の管理形態では、公共団体による直営と公益または一般財団法人による指定管理で 78%（483 件）が占められていた。

1Q2. 貴施設の設置場所（都道府県）をお答えください。

	件	%
北海道	41	6.2%
東京都	40	6.0%
神奈川県	35	5.3%
愛知県	32	4.8%
兵庫県	29	4.4%
千葉県	24	3.6%
大阪府	24	3.6%
福岡県	24	3.6%
埼玉県	21	3.2%
新潟県	19	2.9%
岐阜県	19	2.9%
静岡県	19	2.9%
広島県	18	2.7%
長野県	17	2.6%
山口県	17	2.6%
福島県	14	2.1%
岡山県	14	2.1%
秋田県	13	2.0%
群馬県	13	2.0%
富山県	13	2.0%
宮城県	12	1.8%
栃木県	12	1.8%
京都府	12	1.8%
石川県	11	1.7%
島根県	11	1.7%
長崎県	11	1.7%
岩手県	10	1.5%
山梨県	10	1.5%
三重県	10	1.5%
熊本県	10	1.5%
滋賀県	9	1.4%
山形県	8	1.2%
愛媛県	8	1.2%
鹿児島県	8	1.2%
茨城県	7	1.1%
奈良県	7	1.1%
宮崎県	7	1.1%
青森県	6	0.9%
和歌山県	6	0.9%
鳥取県	6	0.9%
徳島県	6	0.9%
香川県	6	0.9%
福井県	5	0.8%
高知県	5	0.8%
沖縄県	5	0.8%
佐賀県	4	0.6%
大分県	4	0.6%
無回答／わからない	3	0.5%

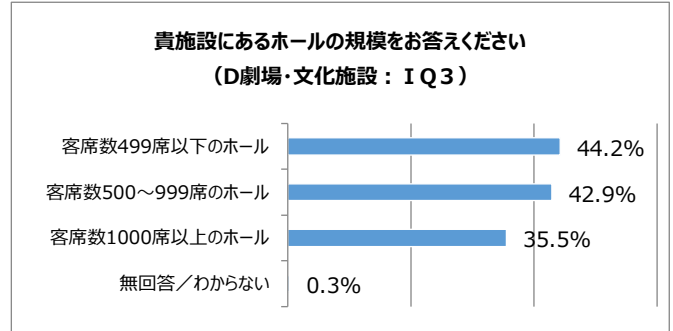
(有効回答数：665)



I Q 3. 貴施設にあるホールの規模をお答えください。（複数回答可）

	件	%
客席数 499 席以下のホール	294	44.2%
客席数 500～999 席のホール	285	42.9%
客席数 1000 席以上のホール	236	35.5%
無回答／わからない	2	0.3%

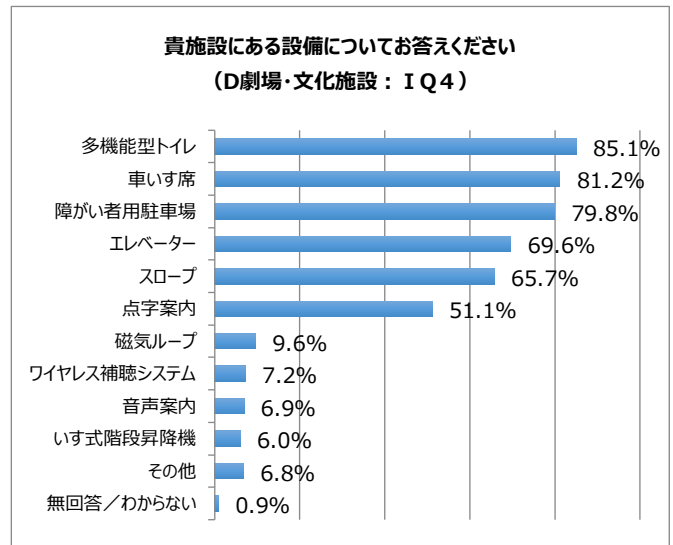
(有効回答数：665)



I Q 4. 貴施設にある設備についてお答えください。（複数回答可）

	件	%
多機能型トイレ	566	85.1%
車いす席	540	81.2%
障がい者用駐車場	531	79.8%
エレベーター	463	69.6%
スロープ	437	65.7%
点字案内	340	51.1%
磁気ループ	64	9.6%
ワイヤレス補聴システム	48	7.2%
音声案内	46	6.9%
いす式階段昇降機	40	6.0%
その他	45	6.8%
無回答／わからない	6	0.9%

(有効回答数：665)



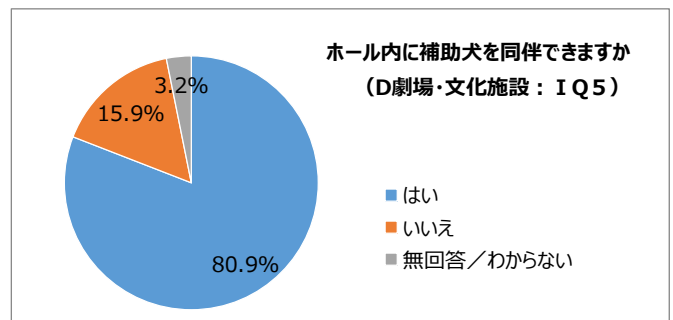
車いす席のある施設は 540 施設／681 ホールで、1 ホール平均 6.1 席あった。エレベーターのある施設は 463 施設で、平均 1.7 基あった。いす式階段昇降機のある施設は 40 で、平均 1.3 基あった。多機能トイレのある施設は 566 で、平均 2.7 個あった。障がい者用駐車場の施設は 531 で、平均 3.3 台あった。その他の設備としては「点字案内板」（10 件）、ついで「車いすリフト」（9 件）、「貸出し用車いす」（6 件）、「補聴システム」（3 件）などがあつた。

多機能トイレや車いす席、障がい者用駐車場、エレベーター、スロープ、点字ブロックのアクセシビリティの設備があると答えた施設は、いずれも 50% を超える高い結果であつた。磁気ループやワイヤレス補聴システム、音声案内の鑑賞・情報をサポートする設備は 10% 未満と非常に少ないことが明らかになった。

I Q 5. ホール内に補助犬を同伴できますか。

	件	%
はい	538	80.9%
いいえ	106	15.9%
無回答／わからない	21	3.2%

(有効回答数：665)

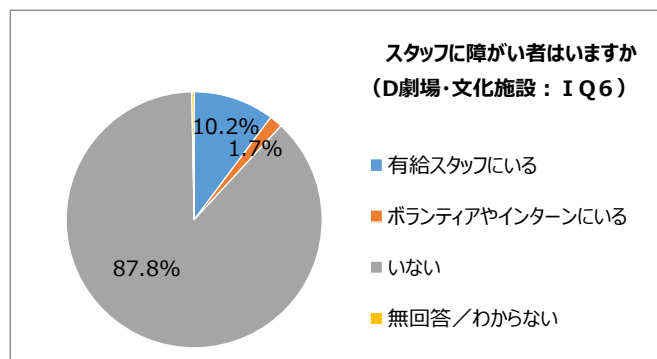


ホール内に補助犬が入れない施設が 15.9%（106 件）あつた。

I Q 6 . スタッフに障がい者はいますか。（複数回答可）

	件	%
有給スタッフにいる	68	10.2%
ボランティアやインターンにいる	11	1.7%
いない	584	87.8%
無回答／わからない	2	0.3%

（有効回答数：665）

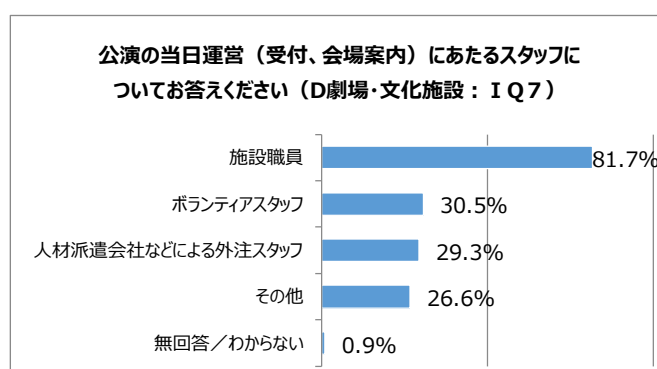


障がいのある人が制作者や運営者として劇場にかかわれている数はとても少ないことが明らかとなった。

I Q 7 . 公演の当日運営（受付、会場案内）にあたるスタッフについてお答えください。（複数回答可）

	件	%
施設職員	543	81.7%
ボランティアスタッフ	203	30.5%
人材派遣会社などによる外注スタッフ	195	29.3%
その他	177	26.6%
無回答／わからない	6	0.9%

（有効回答数：665）



その他の具体的な内容は、98.3%（174 件）が「貸館先のスタッフ」と回答した。

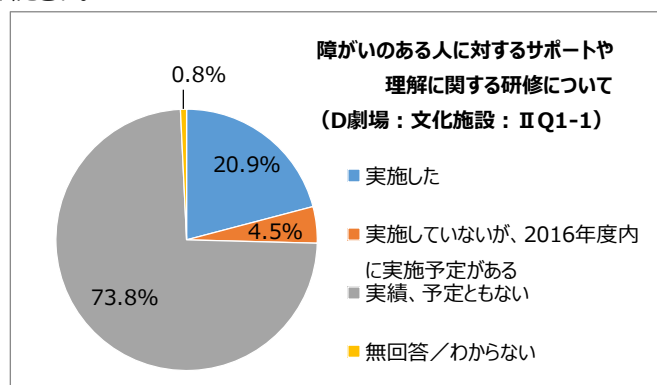
II スタッフ研修について

II Q 1 . 障がいのある人に対するサポートや理解に関する研修について

II Q1-1 . 2015 年 4 月以降の研修の実施状況についてお答えください。

	件	%
実施した	139	20.9%
実施していないが、2016 年度内に実施予定がある	30	4.5%
実績、予定ともない	491	73.8%
無回答／わからない	5	0.8%

（有効回答数：665）

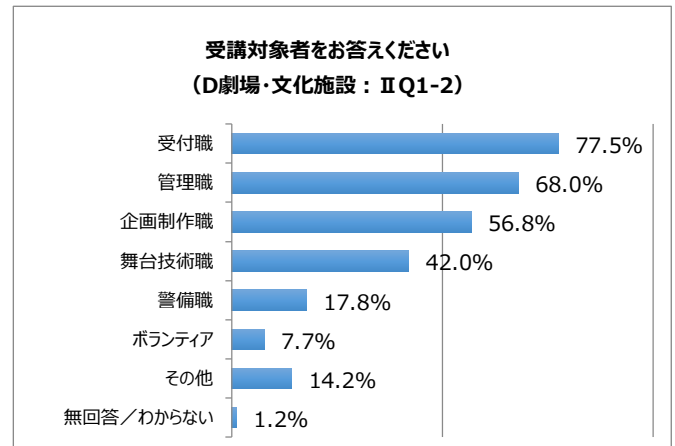


II Q1-1で「（１）実施した」または「（２）実施していないが、2016年度内に実施予定がある」と答えた方に伺います。

II Q1-2. 受講対象者をお答えください。（複数回答可）

	件	%
受付職	131	77.5%
管理職	115	68.0%
企画制作職	96	56.8%
舞台技術職	71	42.0%
警備職	30	17.8%
ボランティア	13	7.7%
その他	24	14.2%
無回答／わからない	2	1.2%

(有効回答数：169)

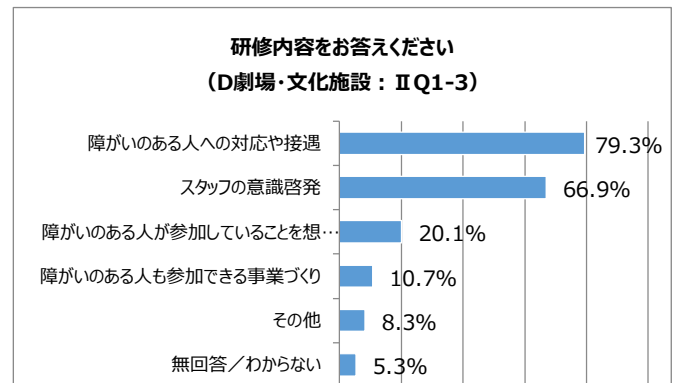


その他の具体的な内容では、「レストランスタッフ」や「清掃員」、「一般参加者」といった少数回答があった。

II Q1-3. 研修内容をお答えください。（複数回答可）

	件	%
障がいのある人への対応や接遇	134	79.3%
スタッフの意識啓発	113	66.9%
障がいのある人が参加していることを想定した危機管理・避難訓練	34	20.1%
障がいのある人も参加できる事業づくり	18	10.7%
その他	14	8.3%
無回答／わからない	9	5.3%

(有効回答数：169)



その他の具体的な内容では、「手話研修」（5件）、ついで「障害者差別解消法に関すること」（4件）があった。

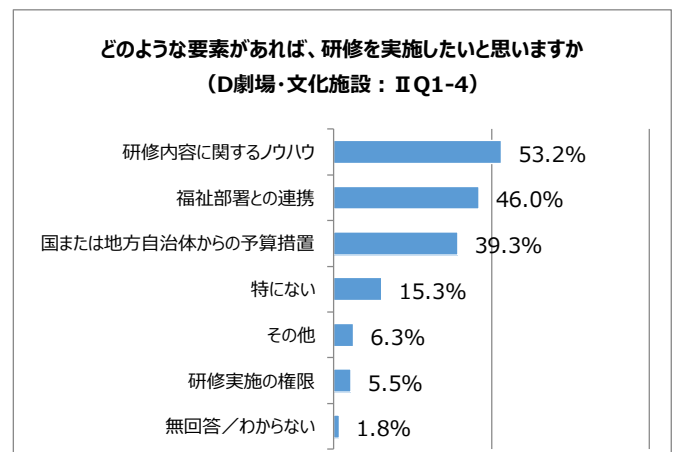
研修を実施しているところでは、意識啓発や接遇対応に関する内容は実施されていますが、具体的な事業づくりや危機管理・避難訓練は実施されていなかった。事業づくりや危機管理・避難訓練についての研修は、設問 2「今後必要な研修」で数値を伸ばしており、多くの劇場が今後取り組む必要性を感じていることがわかる。

II Q1-1で「（３）実績、予定ともない」と答えた方に伺います。

II Q1-4. どのような要素があれば、研修を実施したいと思いますか。（複数回答可）

	件	%
研修内容に関するノウハウ	261	53.2%
福祉部署との連携	226	46.0%
国または地方自治体からの予算措置	193	39.3%
特になし	75	15.3%
その他	31	6.3%
研修実施の権限	27	5.5%
無回答／わからない	9	1.8%

(有効回答数：491)



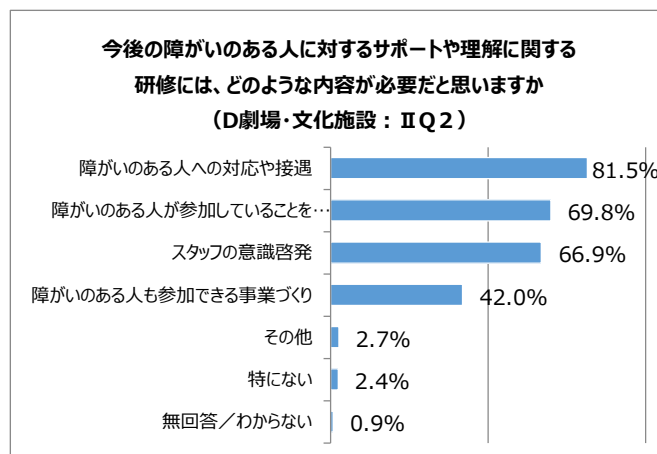
その他の具体的な内容では、「公文協や他の機関での研修があれば」（6件）、「次年度以降に実施予定」（3件）、「人数がい

れば」（2件）、「時間的な余裕があれば」（2件）などがあった。「観客に障がいのある方が増えれば」や「行政の動き待ち」「行政からの要請があれば」といった少数意見もあった。

Ⅱ Q 2. 今後の障がいのある人に対するサポートや理解に関する研修には、どのような内容が必要だと思いますか。（複数回答可）

	件	%
障がいのある人への対応や接遇	542	81.5%
障がいのある人が参加していることを想定した危機管理・避難訓練	464	69.8%
スタッフの意識啓発	445	66.9%
障がいのある人も参加できる事業づくり	279	42.0%
その他	18	2.7%
特にない	16	2.4%
無回答／わからない	6	0.9%

（有効回答数：665）



その他の具体的な内容では、「施設・設備に関すること」（7件）、ついで「実践・体験研修」（2件）、「当日者との意見交換」（1件）、「障害者差別解消法について」（1件）などがあった。

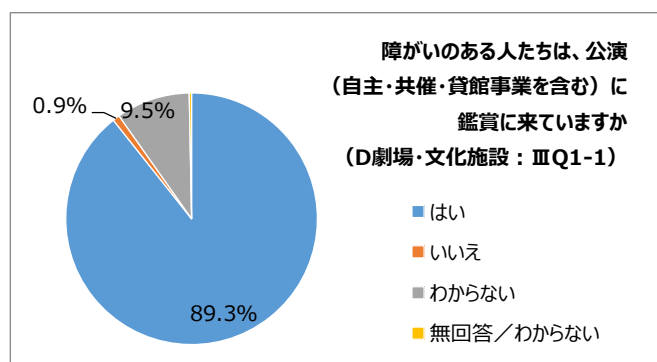
Ⅲ 障がいのある人の鑑賞について

Ⅲ Q1. 障がいのある人たちの鑑賞実態について

Ⅲ Q1-1. 障がいのある人たちは、公演（自主・共催・貸館事業を含む）に鑑賞に来ていますか。

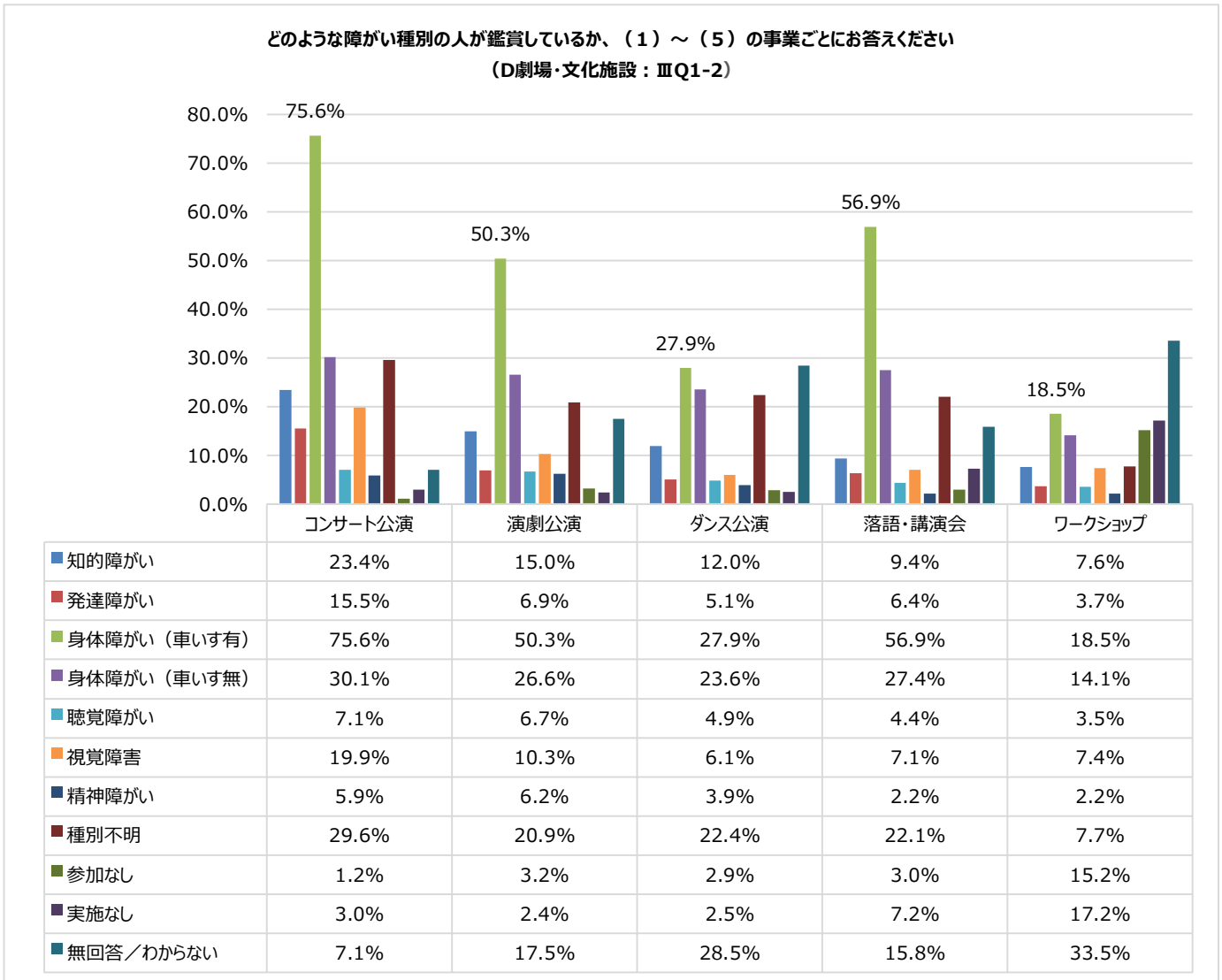
	件	%
はい	594	89.3%
いいえ	6	0.9%
わからない	63	9.5%
無回答／わからない	2	0.3%

（有効回答数：665）



ⅢQ1 1-1で「（1）はい」と答えた方に伺います。

ⅢQ1-2. どのような障がい種別の方が鑑賞しているか、（1）～（5）の事業ごとにお答えください。（複数回答可）

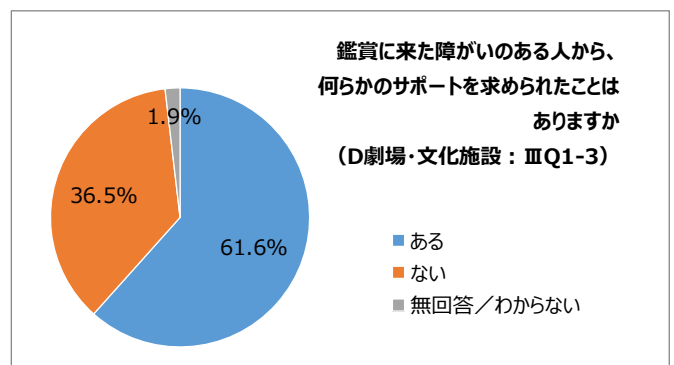


（有効回答数：594）

ⅢQ1-3. 鑑賞に来た障がいのある人から、何らかのサポートを求められたことはありますか。

	件	%
ある	366	61.6%
ない	217	36.5%
無回答／わからない	11	1.9%

（有効回答数：366）

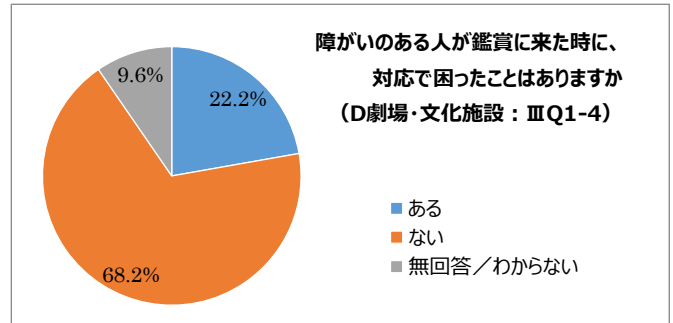


「（1）ある」の具体的な内容では、案内誘導と車いす対応で7割を超えていた。その他の少数意見としては、手話通訳や筆談といったコミュニケーション対応、優先入場や座席・駐車場の優先確保などがあつた。

ⅢQ1-4. 障がいのある人が鑑賞に来た時に、対応で困ったことはありますか。

	件	%
ある	132	22.2%
ない	405	68.2%
無回答／わからない	57	9.6%

(有効回答数：594)



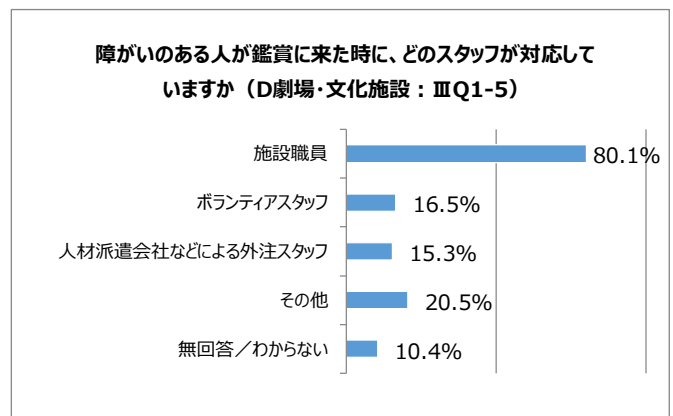
「(1) ある」の具体的な内容では、ハード面よりソフト面での対応に困ったことのある施設が 1.5 倍以上多い回答が寄せられた。多くの劇場では、障がいのある人たちが鑑賞に訪れていると認識していることがわかりました。訪れている障害種別は、どの事業でも車いす利用者が最も多い結果となった。

鑑賞に来た障がいのある人たちから、何らかのサポートを求められた劇場は 61.6% (366 件) で、その内容の 7 割は案内誘導と車いす対応で占められており、対応で困ったと答える劇場は 22.2% (132 件) に留まった。現状では、劇場は障がいのある人の対応でそれほど困っていないことが推測できる。

ⅢQ1-5. 障がいのある人が鑑賞に来た時に、どのスタッフが対応していますか。

	件	%
施設職員	476	80.1%
ボランティアスタッフ	98	16.5%
人材派遣会社などによる外注スタッフ	91	15.3%
その他	122	20.5%
無回答／わからない	62	10.4%

(有効回答数：594)

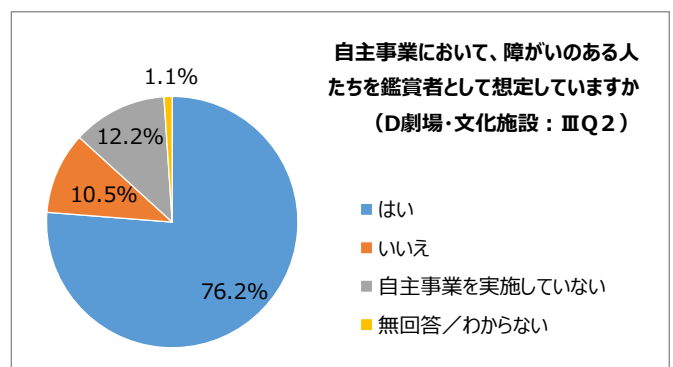


その他の具体的な内容では、「貸館先スタッフ」が 8 割以上を占めた。

ⅢQ2. 自主事業において、障がいのある人たちを鑑賞者として想定していますか。

	件	%
はい	507	76.2%
いいえ	70	10.5%
自主事業を実施していない	81	12.2%
無回答／わからない	7	1.1%

(有効回答数：665)

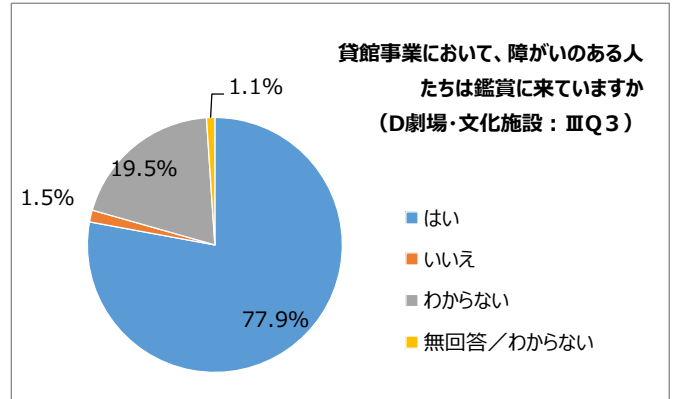


7 割を超える劇場が障がいのある人たちを鑑賞者として想定していることが分かった。自主事業を実施していないところを除くと、さらに想定している率は上がり、8 割を超えてくることがわかった。

ⅢQ3. 貸館事業において、障がいのある人たちは鑑賞に来ていますか。

	件	%
はい	518	77.9%
いいえ	10	1.5%
わからない	130	19.5%
無回答／わからない	7	1.1%

(有効回答数：665)

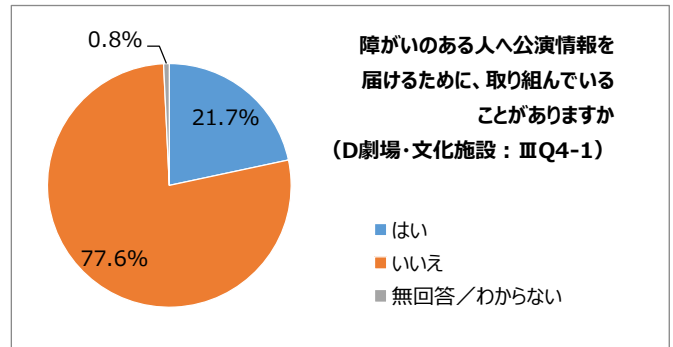


ⅢQ4. 障がいのある人への情報発信について

ⅢQ4-1. 障がいのある人へ公演情報を届けるために、取り組んでいることがありますか。

	件	%
はい	144	21.7%
いいえ	516	77.6%
無回答／わからない	5	0.8%

(有効回答数：665)

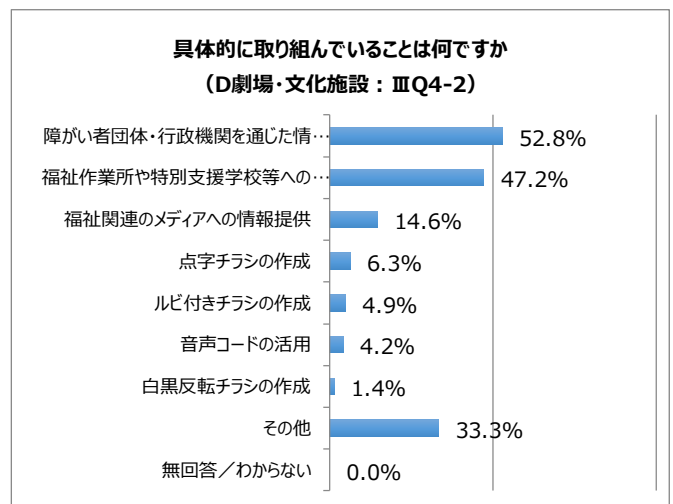


ⅢQ4-1で「(1) はい」と答えた方に伺います。

ⅢQ4-2. 具体的に取り組んでいることは何ですか。(複数回答可)

	件	%
障がい者団体・行政機関を通じた情報発信	76	52.8%
福祉作業所や特別支援学校等への情報発信	68	47.2%
福祉関連のメディアへの情報提供	21	14.6%
点字チラシの作成	9	6.3%
ルビ付きチラシの作成	7	4.9%
音声コードの活用	6	4.2%
白黒反転チラシの作成	2	1.4%
その他	48	33.3%
無回答／わからない	0	0%

(有効回答数：144)



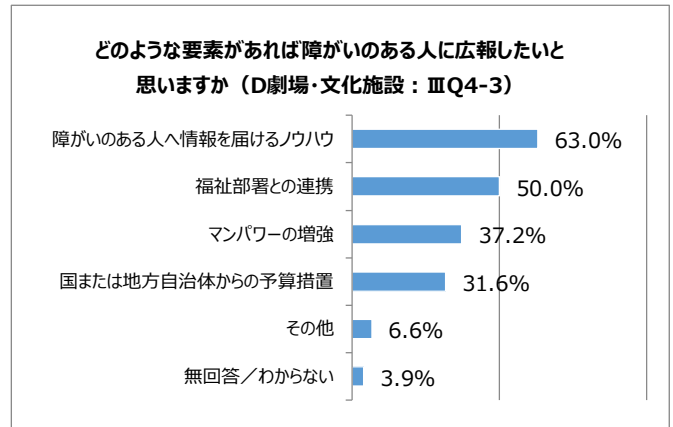
その他の具体的な内容では、「ホームページの音声ソフト導入」や「音声案内版」などによる音声情報（17件）が最も多く、ついで点訳（7件）、直接アプローチ（4件）といった取り組みがあった。

ⅢQ4-1で「（２）いいえ」と答えた方に伺います。

ⅢQ4-3. どのような要素があれば障がいのある人に広報したいと思いますか。（複数回答可）

	件	%
障がいのある人へ情報を届けるノウハウ	325	63.0%
福祉部署との連携	258	50.0%
マンパワーの増強	192	37.2%
国または地方自治体からの予算措置	163	31.6%
その他	34	6.6%
無回答／わからない	20	3.9%

（有効回答数：516）



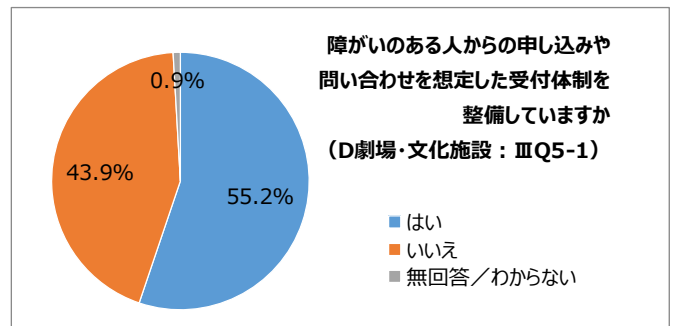
その他の具体的な内容では、「貸館のため主催者から要望があった場合」（8件）、ついで「障がいのある人を限定して情報発信しない」（7件）、「ハードの解消」（5件）、「必要ない」（2件）などがあった。

ⅢQ5. 受付体制について

ⅢQ5-1. 障がいのある人からの申し込みや問い合わせを想定した受付体制を整備していますか。

	件	%
はい	367	55.2%
いいえ	292	43.9%
無回答／わからない	6	0.9%

（有効回答数：665）

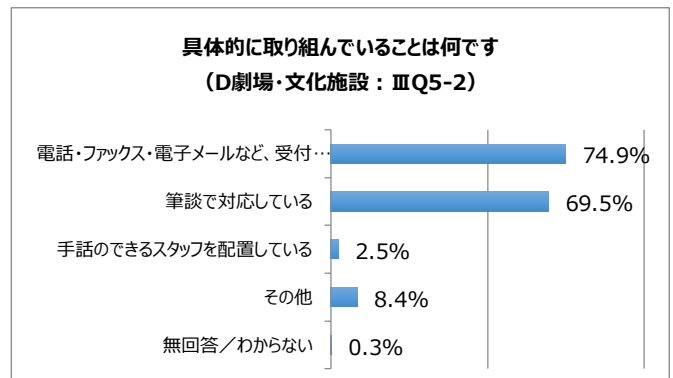


ⅢQ5-1で「（１）はい」と答えた方に伺います。

ⅢQ5-2. 具体的に取り組んでいることは何ですか。（複数回答可）

	件	%
電話・ファックス・電子メールなど、受付方法を多様化している	275	74.9%
筆談で対応している	255	69.5%
手話のできるスタッフを配置している	9	2.5%
その他	31	8.4%
無回答／わからない	1	0.3%

（有効回答数：367）



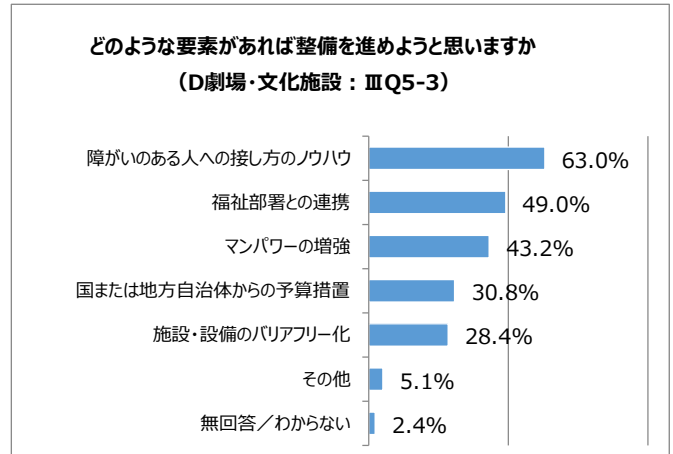
その他の具体的な内容では、車いす貸し出しなどの「車いす対応」（7件）、ついで「事前の研修・講座の実施」（4件）、「減免措置」（2件）があった。少数意見では、耳マークやヘルプマークなどのサイン掲出、UD トークの活用などといった意見も上がっていた。

ⅢQ5-1で「（2）いいえ」と答えた方に伺います。

ⅢQ5-3. どのような要素があれば整備を進めようと思いますか。（複数回答可）

	件	%
障がいのある人への接し方のノウハウ	184	63.0%
福祉部署との連携	143	49.0%
マンパワーの増強	126	43.2%
国または地方自治体からの予算措置	90	30.8%
施設・設備のバリアフリー化	83	28.4%
その他	15	5.1%
無回答／わからない	7	2.4%

（有効回答数：292）



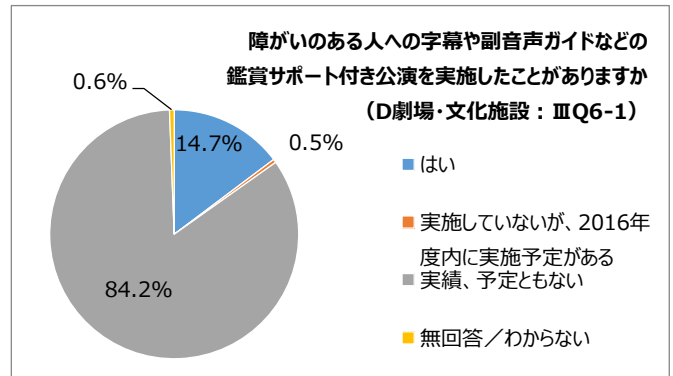
その他の具体的な内容では、「特に必要性を感じていない」（4件）、「貸館のため主催者から要望があった場合」（3件）などがあった。少数意見では、「どのようなものが受付体制整備というかわからない」、「障がい者だからといって受付を優遇することはありません」、「現在の受付体制で対応できなくなったとき」といった意見もあった。

ⅢQ6. 障がいのある人への字幕や副音声ガイドなどの鑑賞サポートについて

ⅢQ6-1. 障がいのある人への字幕や副音声ガイドなどの鑑賞サポート付き公演を実施したことがありますか。

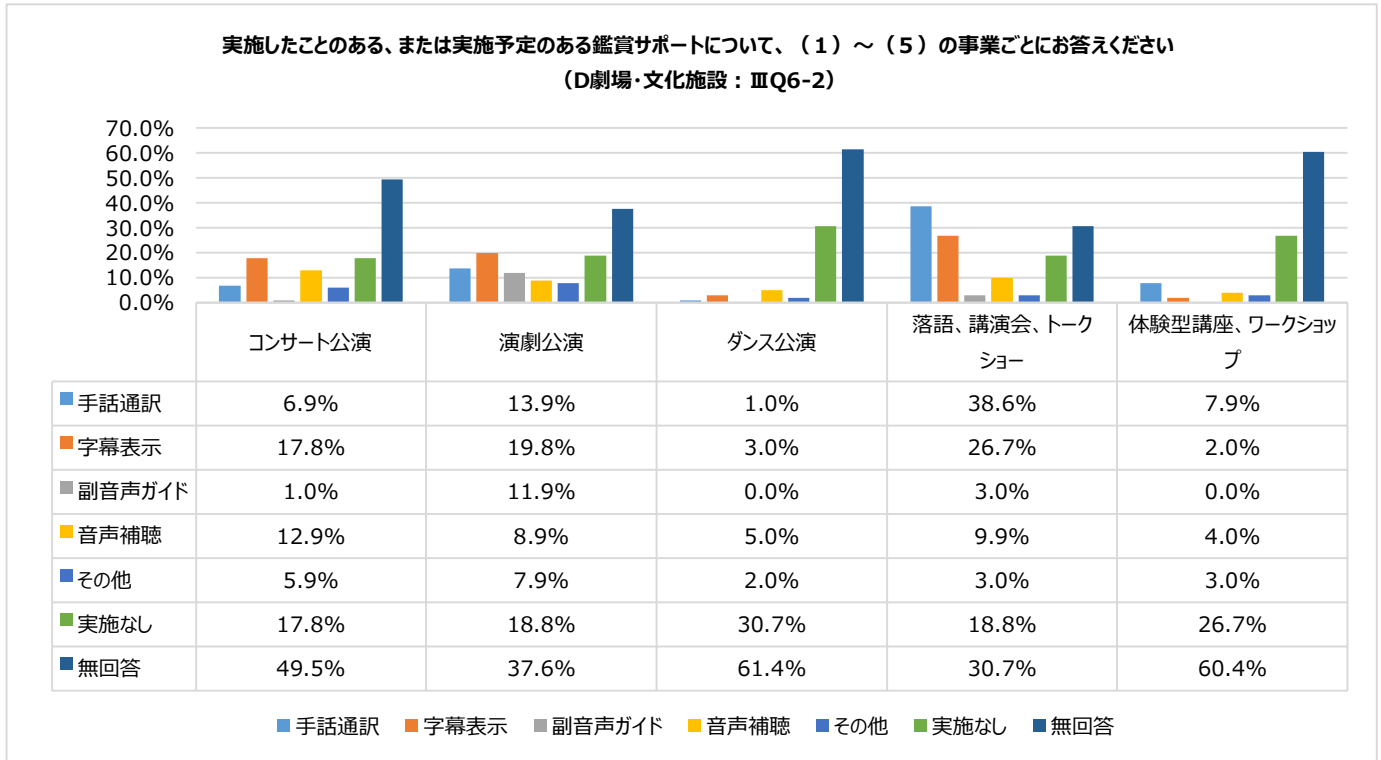
	件	%
はい	98	14.7%
実施していないが、2016年度内に実施予定がある	3	0.5%
実績、予定ともない	560	84.2%
無回答／わからない	4	0.6%

（有効回答数：665）



ⅢQ6-1で「（１）はい」または「（２）実施予定がある」と答えた方に伺います。

ⅢQ6-2. 実施したことのある、または実施予定のある鑑賞サポートについて、（１）～（５）の事業ごとにお答えください。（複数回答可）



（有効回答数：101）

コンサート公演におけるその他の具体的な取り組みには、「振動を身体に伝える」があった。演劇公演では、「台本提供」や「最寄り駅から当館までの誘導」など、公演前に取り組めるサポートがあげられていた。

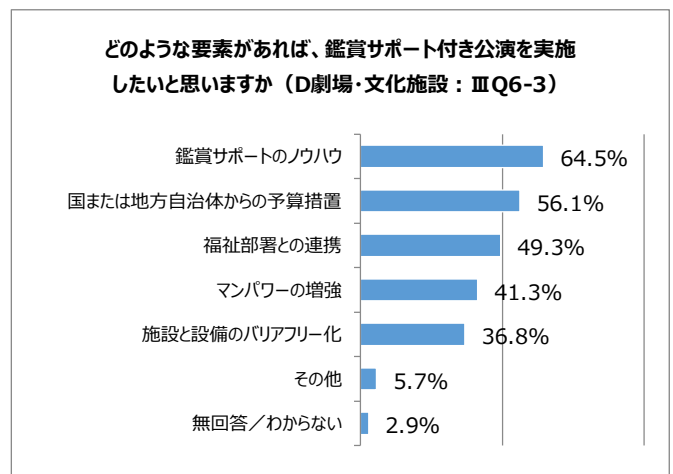
ダンスには、鑑賞サポートを実施しているところは非常に少ない結果となった。また、アンケートの項目にはなかったが、映画上映会やプラネタリウムに字幕や副音声ガイドを実施しているという少数意見も寄せられた。

ⅢQ6-1で「（３）実績、予定ともない」と答えた方に伺います。

ⅢQ6-3. どのような要素があれば、鑑賞サポート付き公演を実施したいと思いますか。（複数回答可）

	件	%
鑑賞サポートのノウハウ	361	64.5%
国または地方自治体からの予算措置	314	56.1%
福祉部署との連携	276	49.3%
マンパワーの増強	231	41.3%
施設と設備のバリアフリー化	206	36.8%
その他	32	5.7%
無回答／わからない	16	2.9%

（有効回答数：560）

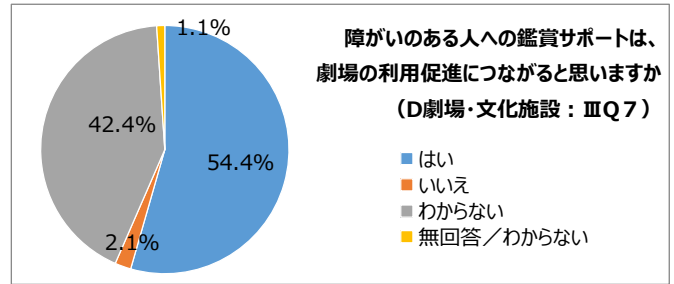


その他の具体的な内容では、「（貸館のため）自主事業を実施していない」（19 件）が半数以上を占めた。その他の意見には「需要があれば」（2 件）、「自主事業が拡大されれば」（1 件）があった。

ⅢQ 7. 障がいのある人への鑑賞サポートは、劇場の利用促進につながると感じますか。

	件	%
はい	362	54.4%
いいえ	14	2.1%
わからない	282	42.4%
無回答／わからない	7	1.1%

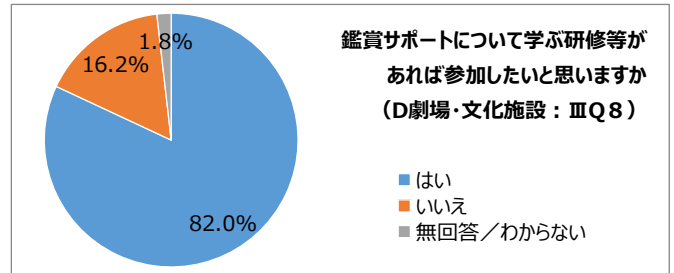
(有効回答数：665)



ⅢQ 8. 鑑賞サポートについて学ぶ研修等があれば参加したいと思いますか。

	件	%
はい	545	82.0%
いいえ	108	16.2%
無回答／わからない	12	1.8%

(有効回答数：665)



半数以上が利用促進につながると答えた一方、半数近くがわからないと答えた。鑑賞サポートが何なのかを理解していない可能性もある。

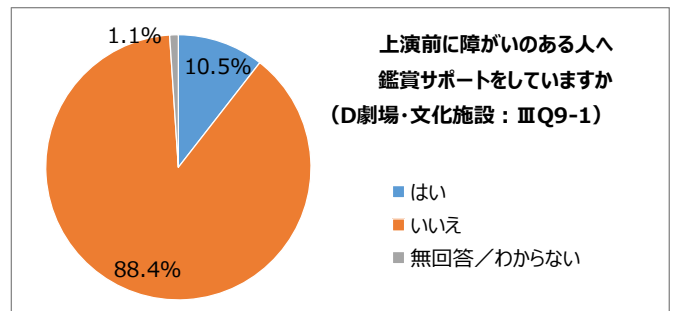
鑑賞サポートを学ぶ研修に参加したいと思う劇場が8割を超えていることから、今後、利用促進につながると感じる劇場が増えることが期待される。

ⅢQ 9. 上演前の障がいのある人への鑑賞サポートについて

ⅢQ9-1. 上演前に障がいのある人へ鑑賞サポートをしていますか。

	件	%
はい	70	10.5%
いいえ	588	88.4%
無回答／わからない	7	1.1%

(有効回答数：665)

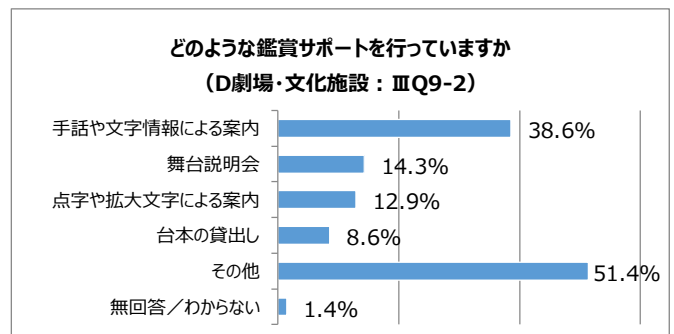


ⅢQ9-1で「(1) はい」と答えた方に伺います。(複数回答可)

ⅢQ9-2. どのような鑑賞サポートを行っていますか。(複数回答可)

	件	%
手話や文字情報による案内	27	38.6%
舞台説明会	10	14.3%
点字や拡大文字による案内	9	12.9%
台本の貸出し	6	8.6%
その他	36	51.4%
無回答／わからない	1	1.4%

(有効回答数：70)



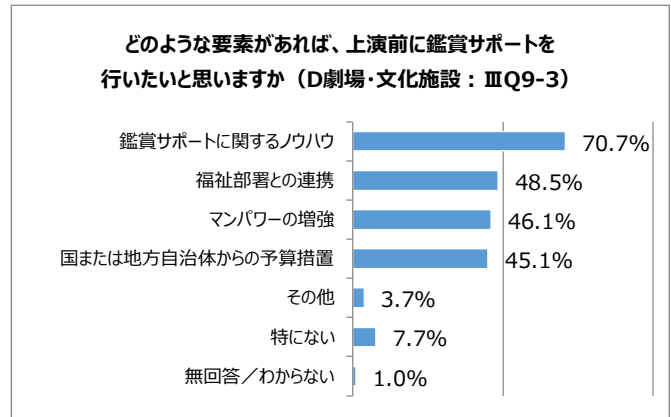
その他の大半は座席案内や車いす対応といった運営サポートに関する内容であった。

ⅢQ9-1「（2）いいえ」と答えた方に伺います。

ⅢQ9-3. どのような要素があれば、上演前に鑑賞サポートを行いたいと思いますか。（複数回答可）

	件	%
鑑賞サポートに関するノウハウ	416	70.7%
福祉部署との連携	285	48.5%
マンパワーの増強	271	46.1%
国または地方自治体からの予算措置	265	45.1%
その他	22	3.7%
特になし	45	7.7%
無回答／わからない	6	1.0%

（有効回答数：588）



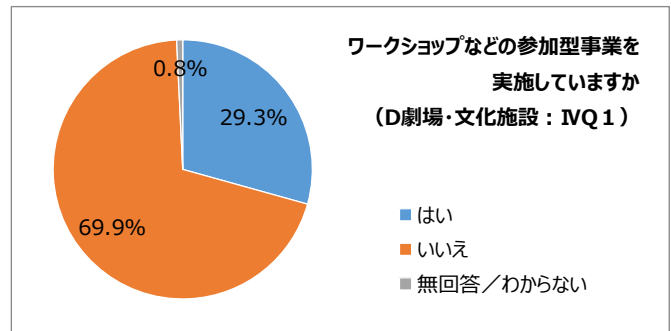
その他の具体的な内容では、「貸館である」（8件）、「支援団体等との協働」（2件）、「要望があれば」（2件）、「ニーズがない」（1件）、「対応できる設備」（1件）、「出演者団体等の協力」（1件）があった。

Ⅳ 障がいのある人の表現活動について

ⅣQ1. ワークショップなどの参加型事業を実施していますか。

	件	%
はい	195	29.3%
いいえ	465	69.9%
無回答／わからない	5	0.8%

（有効回答数：665）



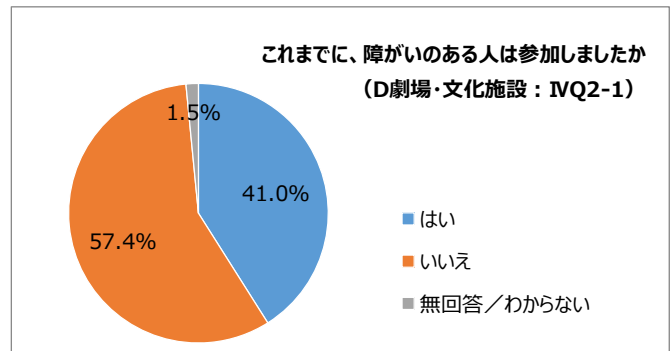
ⅣQ1で「（1）はい」と答えた方に伺います。

ⅣQ2. 障がいのある人の参加について

ⅣQ2-1. これまでに、障がいのある人は参加しましたか。

	件	%
はい	80	41.0%
いいえ	112	57.4%
無回答／わからない	3	1.5%

（有効回答数：195）



IVQ2-2. 障がいのある人が参加したことで、苦勞したことや対応で困ったことがあれば、具体的な内容とその時の対応方法をお答えください。

苦勞・困ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供（小～中学生）合唱ワークショップで、少し知的障害がある男子中学生が参加申し込みをしてきて、こまかい状態がわからないまま、とりあえず参加可としてスタートした。4ヶ月間におよぶ長期ワークショップだったこともあり、全ての会に対象男子は来るが、保護者は送迎のみで、会館スタッフと彼のサポートの仕方についてうまく連絡できなかった。（彼の特性を聞きたくても、保護者と会えないなど）。結果、彼の受け入れはきちんと行えたが、色々不十分なところがあった。他の子供たちと、うまく溶け込むことがあまりできなかった。（溶け込める子と、そうでない子にわかれてしまった） ・ ワークショップではありませんが、ツアー公演時に看護士を滞同できず、1日1回カテーテルが必要な参加者を病院（休日）に連れていくのが苦勞した。 ・ 事前の申込みのハガキには何の記載もなかったが、手話通訳の方の付添が必要なケースがあり、座席の位置等に苦勞した。 ・ 貸館事業に限ってですが、障害者への安全に非常に気を使う。主催者側や障害者の主張（ホール側にサポートするのが当たり前という）が一方向的で閉口してしまう。障害者も回りのスタッフに気配りする配慮が多いに必要。 ・ ワークショップに応募の時点で、お申し出いただいた事もあり、スタッフがサポートに入れるように調整した。大変ではあったが、特に困ったことはなかった。 ・ ケガをしないか、他のお客様、出演者などのトラブル等になる可能性がないか、少し気を使いながら見守っています。 ・ 避難訓練を実施した際、2階席、3階席から避難の場合、スロープが無いため介助者3名が必要となる。有事を想定しなくてはならないが、人員配置の困難がある。 ・ 視覚障がい者向コンテンポラリーダンスWS（近隣在住の当事者の方8名と、ホールスタッフ（晴眼者）8名によるペアーワーク形式。ステージ上で実施のため、舞台端の位置を確認することに苦勞した。スピーカーによる音の効果や、床の違いで確認しあった。盲導犬をWS中に待機してもらったり方にも苦勞した。 ・ 舞台芸術講座を開催した際、足に障がいのある方が参加。舞台上にあがる時やおりる時、階段での介助をした。 ・ 施設／設備のバリアフリー化ができていない箇所がある→車いすの介助をした。 ・ 車いすの来場者が車いす用の座席数を上回った。→前列の取り外し可能な座席を外して対応した。 ・ 参加者の集中に欠ける場面が発生した。 ・ 施設が完全なバリアフリーになっていないので、危険を伴う。エレベーターの案内を対応策として行っている。 ・ 介助者がおらず（到着がおくれた）トイレ介助の要請を施設職員にされたこと ・ 現在行っているワークショップの内容が、個人個人の思ったままの動きや表現を行うもので、個々の障がい度合いに対応できるプログラムを実施しているので、現状に特に困ったことはありません。ただし、講師の方へ障がい種別を事前にお伝えする必要があるため、参加者（付添の方）に障がいの種別・程度をお伺いする時は、若干、気を使う場面があります。 ・ 建物の構造上、車イスのお客様がホールへ入場する際、導線が非常にわかりづらいため専用に人員を配置しなければならない点。 ・ 視覚障害のある方ワークショップに参加する際、要約筆記を行った。 ・ 健常の小中学校と特別支援学校の子ども達を招いて公演を実施した際に、手話通訳、要約筆記等を配置し、実施したが、障がいを持った子どもによっては、要約筆記が表示されるスピードが遅く公演内容を理解できない子どももいた。 ・ 障がい者福祉施設に出向いて演劇ワークショップを実施し始めてまだ2年目施設のスタッフと演劇ワークショップの講師（劇団員）が事前によく打ち合せを充実した内容にできるよう心がけている。 ・ 全て会館側で対応は困難。（一人二人の対応はできる。）スタッフの不足をボランティアでカバーする等、一般の方々の協力も必要。 ・ 子どもミュージカルのワークショップに発達障がいの子も参加練習が成立しなくなり苦勞した。講師・スタッフでがんばって対応していたが、結局子どもがやめてしまった。 ・ 苦勞したことはありませんが、施設が古いので段差などが多く、障がいのある人には、不便な思いをかけていると思います。 ・ 車椅子のご利用者から、特定の車椅子を用意して欲しいと要望があり、行政と相談して、ご希望の車椅子を用意することは不可能だが、現在ある車椅子を利用し、ホールスタッフが合理的配慮を行うことを伝えたところ、理解を得た。 ・ 高等部の障がい者を対象にコミュニケーションワークショップを開催したが、支援学校の前向きな協力が経験豊富な講師
----------	--

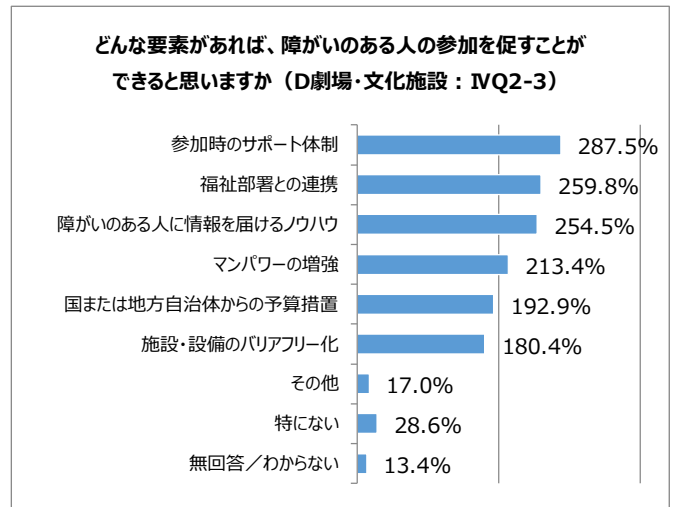
	<p>の指導もあり、障がい者の方への対応で苦勞したことは特になかった。しかし、広報やマスコミ等の対外的な露出に関しては、各家庭での事情もあり、保護者の方への配慮が十分に必要であった為、対応に苦勞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚に障がいがある方がスムーズに来館できるように集合・解散場所を当館及び最寄駅（武蔵小杉）とし、同駅と当館の往復の誘導を行った。聴覚に障がいのある方からの参加申込があったため、委託契約により手話通訳者を配置した。 ・ 手が不自由な子どもがダンスワークショップに参加した際、他の子どもと同じように踊ることができなかったため、欠席が続いた。その子どものためにダンスのレベルを下げたり、特別に扱うわけにもいかず、対応に苦慮した。そこで、会館スタッフと保護者でコミュニケーションをとり、その子どもを特別に扱わないことを理解してもらい、ワークショップに参加するように促した。そうしたところ、その子どもはワークショップに馴染むことができ、現在も積極的に参加している。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引率者、保護者のサポート体制 ・ 障がい者と深いかわりのある社会福祉法人との連携による実施計画中 ・ 当会館は、施設貸出業務が主で、具体的な運営は各々の主催者にゆだねている。当会館の施設の老朽化により、障がいのある方にご迷惑をおかけしたと感じた事はあるが、特に苦情等はいただいている。 ・ 保護者、施設職員などと一緒に参加していたため、特になし。 ・ 車椅子利用者や同伴者がいる等により、特に困ったことはない。 ・ 障がいの種類により必要なサポートが異なるため、職員（マンパワー）の不足が懸念されたが、地域内の障がい者サポート団体の協力を得て、受付及び当日のワークショップを円滑に行うことができた。 ・ 福祉大会、ボランティア祭りなどといったイベントを社協として実施されています。そのときは、市内のボランティアや障害者福祉施設のスタッフが多数参加されており、施設の管理者として障害者のみ区分してサポートする必要性を感じていません。健常者の方もたくさん参加されておりますが、問題はない。 ・ なし 障がい者手帳、難病証明でチケットの割引をしている。 ・ 職員（施設）同伴の為、対応に困ることはない ・ 親等サポート者と同伴してみえるので、特になし ・ 特になし（ワークショップなどの参加型事業を実施しているが、障がいのある人の参加がないため） ・ 昨年度まで、育成事業の合唱団に障がいのある子が在籍しておりました。周囲の子が支え合い、助けてくれたので、とてもよい雰囲気でした。 ・ 演劇のワークショップに聴覚障がいの方が参加されました。手話のできるご友人も参加されていたので、その方を介して演出家とコミュニケーションを取っていただきました。個々の特長を演技に活かそうという内容のワークショップでしたので、特に困ったことはありませんでした。 ・ アウトリーチにて出前授業（ダンス）実施（支援学校）特に困ったことなし（先生のサポート） ・ サポーターが同行しているので、困ったことは特にありません。 ・ 想定される内容と、それに応じたサポート要員をつけることで、特に目立つ混乱や困ることはありませんでした。 ・ 同伴の方と来館することが多いのでスタッフに対応を求められることはあまりありません。 ・ 公演会場への入・退場の際、一般の方に声掛けをすることで注意を促し、障がいのある方が円滑に入・退場ができるように努めている。

IVQ1で「（2）いいえ」と答えた方に伺います。

IVQ2-3. どんな要素があれば、障がいのある人の参加を促すことができますか。（複数回答会）

	件	%
参加時のサポート体制	322	287.5%
福祉部署との連携	291	259.8%
障がいのある人に情報を届けるノウハウ	285	254.5%
マンパワーの増強	239	213.4%
国または地方自治体からの予算措置	216	192.9%
施設・設備のバリアフリー化	202	180.4%
その他	19	17.0%
特になし	32	28.6%
無回答／わからない	15	13.4%

（有効回答数：112）



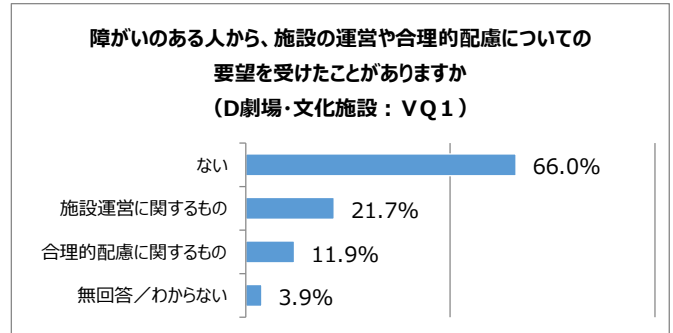
その他の具体的な内容では、「貸館のみである」（6件）、「適したプログラムの開発」（3件）、「他の人と同じ対応をすべき」（1件）、「研修時間の十分な確保」（1件）、「応募がない」（1件）、「経験や実績のある指導者やファシリテーターの確保」（1件）などがあつた。

V 施設の取り組みについて

VQ1. 障がいのある人から、施設の運営や合理的配慮についての要望を受けたことがありますか。（複数回答可）

	件	%
ない	439	66.0%
施設運営に関するもの	144	21.7%
合理的配慮に関するもの	79	11.9%
無回答／わからない	26	3.9%

（有効回答数：665）

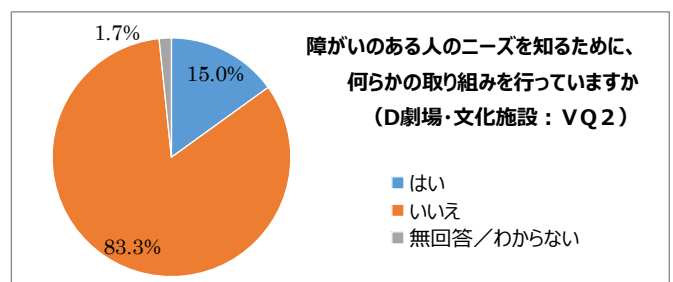


施設運営に関する具体的なものでは、設備関係が59.7%（86件）、駐車場関係が16.7%（24件）であつた。少数意見では、割引といった回答もあつた。合理的配慮に関する具体的なものでも設備関係が31.6%（25件）、駐車場関係が16.5%（13件）と大半を占めた。少数意では、車いすや補助犬の対応、割引に関する回答があつた。

VQ2. 障がいのある人のニーズを知るために、何らかの取り組みを行っていますか。

	件	%
はい	100	15.0%
いいえ	554	83.3%
無回答／わからない	11	1.7%

（有効回答数：665）

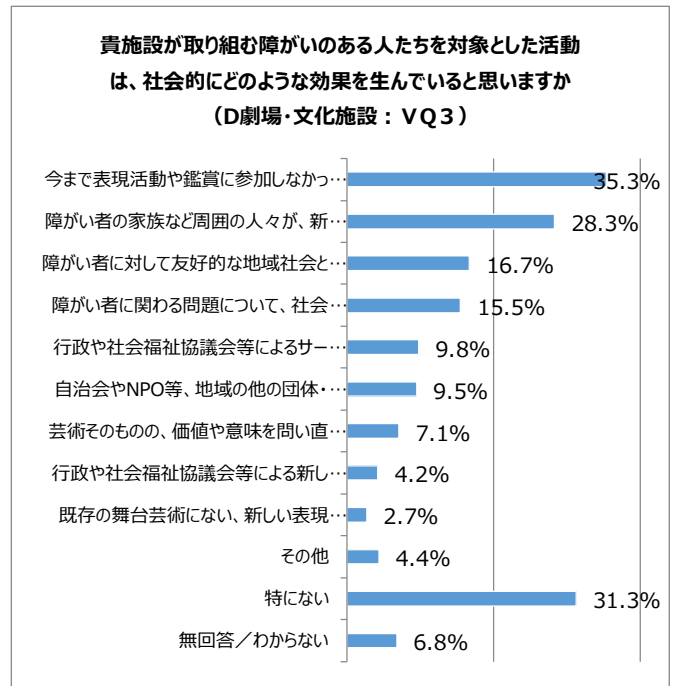


「はい」と答えた方の具体的な取り組み内容では、「アンケートなどによる意見徴収」で6割が占められた。「障がい者団体・施設等との連携」や「障がい者施設等の見学」、「窓口開設」といった取り組みを行っているところはわずかであつた。

VQ3. 貴施設が取り組む障がいのある人たちを対象とした活動は、社会的にどのような効果を生んでいると思いますか。（3つまで）

	件	%
今まで表現活動や鑑賞に参加しなかった人の参加を促すことができた	235	35.3%
障がい者の家族など周囲の人々が、新たな可能性を見出すことができた	188	28.3%
障がい者に対して友好的な地域社会となった	111	16.7%
障がい者に関わる問題について、社会の関心を集めることができた	103	15.5%
行政や社会福祉協議会等によるサービスのきかけとなった	65	9.8%
自治会やNPO等、地域の他の団体・グループの活動に何らかの刺激となった	63	9.5%
芸術そのものの、価値や意味を問い直すことができた	47	7.1%
行政や社会福祉協議会等による新しいサービス開始のきかけとなった	28	4.2%
既存の舞台芸術にない、新しい表現方法を探ることができた	18	2.7%
その他	29	4.4%
特になし	208	31.5%
無回答／わからない	45	6.8%

（有効回答数：665）



VQ3. その他具体的に

- ・ 活動を行っていない×11
- ・ まだ効果といえる状況ではない。
- ・ 公共施設は、平等に文化芸術を市民に提供しなくてはならないと考えています。また、観客同士が、作品について語り合うなど、作品を通して健常者と障がい者、様々な交流を創出できる。
- ・ 貸劇場のため、主催者側の意向次第ですが、エレベーターの使用、車いすのままの観劇などで本人、ご家族が希望した公演を観れることはよいことだと思います。
- ・ あまり活動できていないので、今後の課題としたいです。
- ・ 普通に鑑賞に来られているので、ごく普通のこと。周りの方も特に気にせず。特別に扱う方が不自然ではないですか。
- ・ 現在は、公演などへ参加しやすくなっている程度。
- ・ 実際に障がい者の方の身体的、精神的変化を生み出すことができた。体の可動域が広くなったり、表情や行動面に変化が感じられたりした。また、日ごろ障がい者をサポートする方からも驚きと喜びの声が多く寄せられた。
- ・ 障がい者に対する健常者のスキル向上。
- ・ 社会に効果を生むほどの活動はできていない。
- ・ 団体同士のつながり、広げるきっかけになった。
- ・ 小中学生と鑑賞の場を同じくし、障がい者への理解を深めることができた。
- ・ 障害者差別解消法に関するシンポジウム開催により、他館、主催者、行政等の意識を高めることにつながった。
- ・ 利用者サービスの向上。
- ・ 効果を生むほどの取り組みには至っていないことに、このアンケートを見て気づきました。今後の参考にしたいと思います。

（劇場アンケート内クロス）

スタッフに障がい者が「いる施設」と「いない施設」の研修実施率

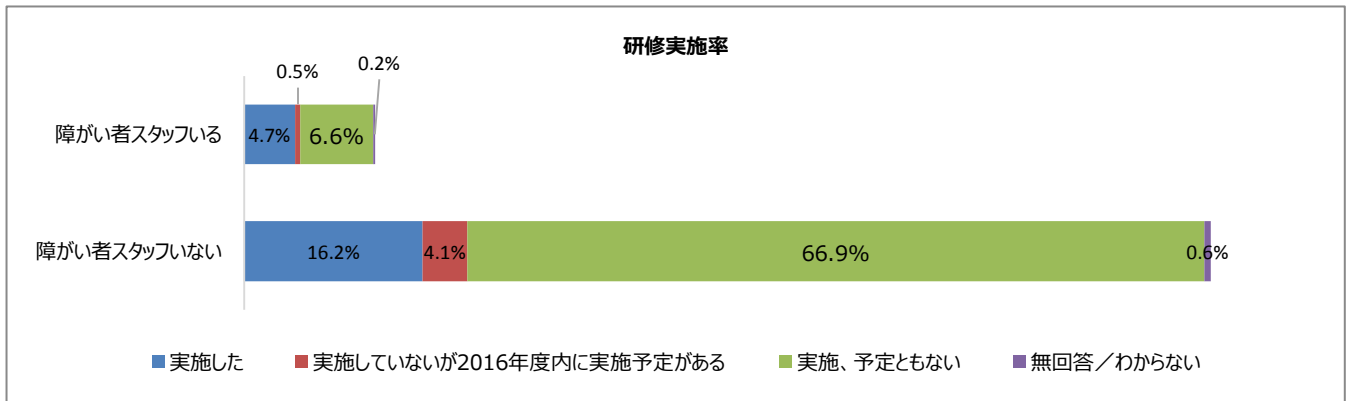
I Q 6 スタッフに障がい者はいますか？（複数回答可）

×

II Q1-1 障がいのある人に対するサポートや理解に関する研修について2015年4月以降の研修の実績状況についてお答えください。

	実施した	実施していないが2016年度内に実施予定がある	実施、予定ともない	無回答／わからない
障がい者スタッフいる	4.7%	0.5%	6.6%	0.2%
障がい者スタッフいない	16.2%	4.1%	66.9%	0.6%

（有効回答数：665）



スタッフに障がい者が「いる施設」と「いない施設」の鑑賞サポート実施率

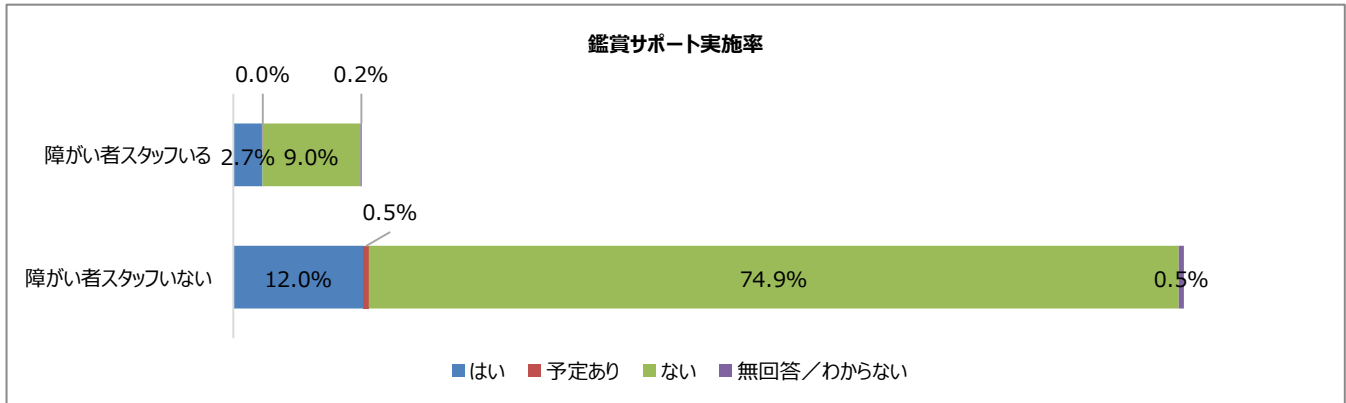
I Q 6 スタッフに障がい者はいますか？（複数回答可）

×

III Q4-1 障がいのある人への字幕や副音声ガイドなどの鑑賞サポート付き公演を実施したことがありますか？

	はい	予定あり	ない	無回答／わからない
障がい者スタッフいる	2.7%	0.0%	9.0%	0.2%
障がい者スタッフいない	12.0%	0.5%	74.9%	0.5%

（有効回答数：665）

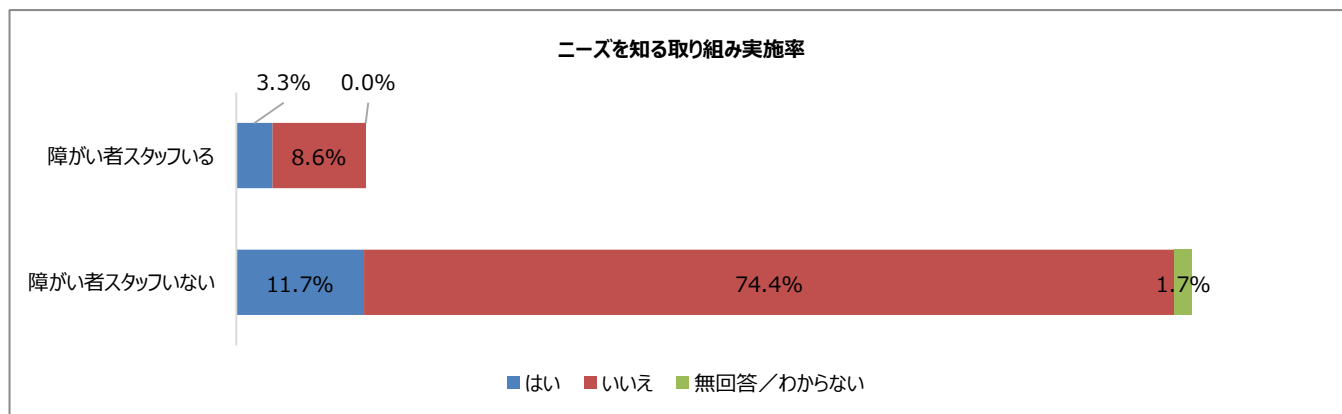


スタッフに障がい者が「いる施設」と「いない施設」のニーズを知る取り組み実施率

I Q 6 スタッフに障がい者はいますか？（複数回答可） × III Q5-1 障がいのある人のニーズを知るために、何らかの取り組みを行っていますか？

	はい	いいえ	無回答/わからない
障がい者スタッフいる	3.3%	8.6%	0.0%
障がい者スタッフいない	11.7%	74.4%	1.7%

（有効回答数：665）



※自由記述（「具体的に」など）については原文ママとした。

※集計における「合計」の表記における（複数回答可）もしくはそれを認める回答について、件数の合計と有効回答数が一致しないものについて省略した。